



平成26年度 重点研究まとめの会
平成27年2月25日

■ 青木村立青木小学校

重点研究まとめの会

「生活総合研究グループ」

下島先生 大井先生 宮下先生
山本先生 小木曾先生 久保田

-
- H26教育課程研究協議会[生活科]
 - H26生活総合研究大会

生活科研究テーマ

対象への関わりを深めていくための支援のあり方はどうあったらよいか。

総合的な学習の時間テーマ

身近なひと・もの・こととかかわり、**地域のよさを実感できる**支援はどうあったらよいか。

単元名・題材名 生活科「ようこそ 年長さん」 ～年長さんといっしょに外たんけんしよう～

1年1組 下島 美穂

自己課題テーマ

対象（ひと・もの・こと）への想いを深め、関わりをもつことよさを実感できる支援のあり方

授業で何をするか！

- ・年長さんとの関係の中で、何を授業でやろうか、迷いに迷った。
- ・年長さんと1年生の距離がぐっと近づくこと。子どもが積極的に取り組めることは何か！
- ・一応子どもと話し合い、進めていく方向が決まりかけたが、いざ指導案を書くことになったら手が進まない！子どもの姿が、浮かんでこないのだ！
- ・もう一度子どもに投げかけた。「先生困ってるんだ。授業で何をすればいいかわからない」



- ・本気の話し合いが始まった。また、子どもの生き生きした姿が見えてきた！
- ・「先生！蜘蛛がトンボを食べてたよ！」「ばなな虫見つけたよ！」



成果

- 年長さんとの関わりのなかで、1年生がやってあげるだけではなく、一緒に楽しむ、その場にいることだけでも意味のあることだと実感できた。
- 浦野川や虫・花の自然界との出会いや発見、一緒に遊ぶことを活動にしたことは、活動に積極的に関わり、ペア同士の距離を近づけることになった。
- 生活科の授業を作っていくうえで、子どもの願いと教師の願いの合うところを探していくことが必要だと感じた。



課題

- 今回は、子どもの動きを見守ることに徹したが、どんな場面での教師の出がどの支援のあり方の研究が必要だと感じた。
- 子どもの記録を残し、心の変化やその子の思い、気持ちの背景などを教師が見取り、考えることで授業の課題や発問、どの子を中心に据えていくかなどがみえてくると思う。

単元名 「おばけやしきをつくろう」 内容 (4) (6)

1年2組 大井 和彦

自己課題テーマ

子ども自らが学びを創りだしていけるような題材づくりのあり方

本時のねらい (19間中 第8時)

「どこかに隠れておどかせば怖さが増すと考え、隠れ家を作り始めた子ども達が、年長さんが怖くなるようなおばけの隠れ家にするにはどうしたらいいか考え、工夫したり試行錯誤したりすることを通してお化けの怖さが増すような隠れ家を作ることができる。



成果

- ・入学したばかりの子ども達にとって、学校での学習に対するとらえ方が、机上だけの学習から体を使ったり、材料を自分なりに持ってきて作ったりする学習もあるのだというものに変わってくる。
 - ・具体的な活動を丹念に仕組んでいくと、学習課題が座り、子ども達の学び合いが成立し始める。
 - ・些細な活動の中に子ども達の願いや思いが隠されていることが多い。それを大事にし、こちらの思い描いた単元展開を更新していくことが大切である。あるときには、這い回ることを見守る勇気も必要である。
- また、学習時間の弾力的な運用も必要である。

課題

- ・効率性を求めるのではなく、子どもの願いや思いに沿って単元展開をしていくことが大事であることは分かってきたが、時間という制約をどう克服していくかが課題となる。
- ・子供の願いや思いを「感じ取り・理解していく」ことの重要性は痛感するが、より深いとらえ方をどのようにしたらできるか課題として残る。

生活科 「うら野川であそぼう」

2年1組 宮下 恵理子

<自己課題テーマ>

対象への気付きを深め、一人一人が自らの成長を実感できる支援のあり方

子どもと自分の指導の実態

- こちらから提案したことには、一生懸命取り組むことができるが、指示を待つなど受け身になりがち。（教師主体の授業になっている）
- グループ活動では、一部の子のみが活躍している。自分の気持ちを表現できない子もいる。（うまくグループ活動を指導できていない）
- 遊びの中でけんかがよく起こる。自分の気持ちを押しつけてしまいがちである。（起こってからの指導ばかりだが・・・）



育ちの願い

一つの課題に向かって友だちと協力して活動することで、我慢したり、気持ちを合わせたりして、**一つのことをやり遂げる楽しさやそのよさを感じてほしい**。その中で**自分の思いや願いを表現できる**ようになってほしい。

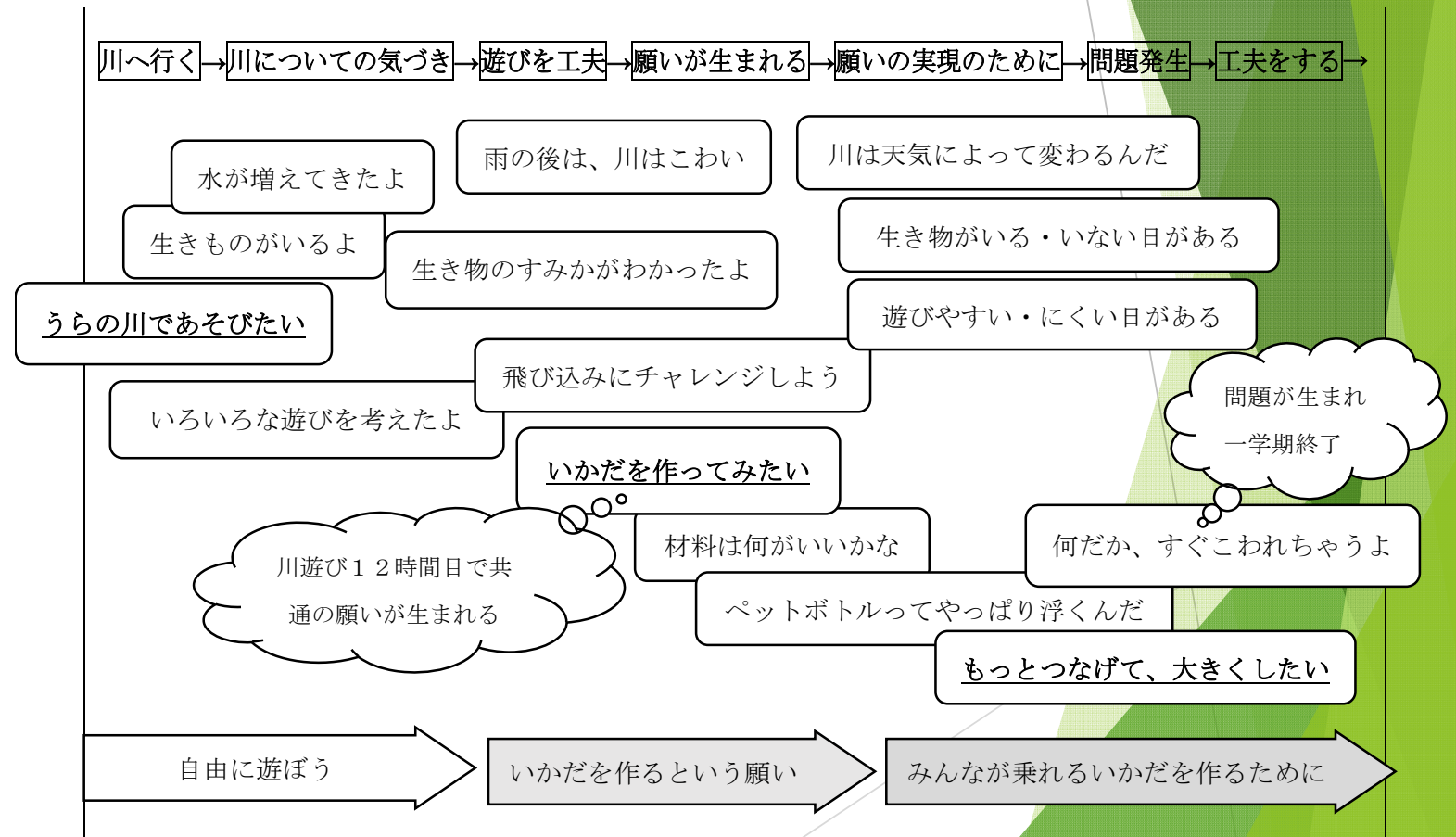
自由遊び→願いが生まれる（一学期）

毎日のように子どもたちと浦野川へ通い、気付きや思いを深めていった。

↓
川遊び12時間目の時、Tくんが「いかだをつくってみたい」とつぶやいた。

↓
話し合いでみんなの共通の願いとなった。

↓
ペットボトルを抱いて浮かんでみたことで、その思いはあっという間に膨らんでいった。



失敗から学ぶ子どもたち



こちらからはあえて、求められるまでアドバイスをしなかった。やってみることで、子どもたち自身で気付いていった。

学習は、作る→試す→振り返る→計画する→
作る→・・・のサイクルで進んでいった



友だちと協力するよさに気づき始めた子どもたち



「乗ってみたら～だったよ」「ここがこわれやすかった」
「川はプールとは違うね」「こうすればいいんじゃない」
「～をつかってみようよ」・・・ヒントは友だちの気づきにあることに、気づき始めた子どもたち



出来上がったいかだに乗り、喜びを共有する子どもたち



いかだに実際に乗ることで、うまくできた手応え、喜びを、一人一人が感じることができた。班の友だちと何度も乗り、川と一体化して、浸り込んでいた。

肌寒い10月半ばまで、通いました・・・



成果と課題

成果

- ①繰り返し川へ通い、思いを深めたことで、一人一人に願いが生まれ、その後の活動の原動力となった。意欲をもって主体的に活動が行えた。
- ②試行錯誤をする時間を十分に確保したことで、たくさんの気づきが生まれた。その気づきをもとに、意見を言おうとする子が増え、活発な話し合いが行われた。
- ③友だちと話すこと、意見を聞くことは、自分自身にとってもためになることだと気付くことができ、相手の話に耳を傾けられるようになってきた。

課題

- ①支援のあり方はどうだったか。子どもたちに任せたい思いは強いが、どこまで教師が出たらより適切で有効な支援になるのか。支援の仕方はこれからも考えていきたい。

題材名 3年「青木村のホタルマップをつくろう」

3年2組 小木曾和彦

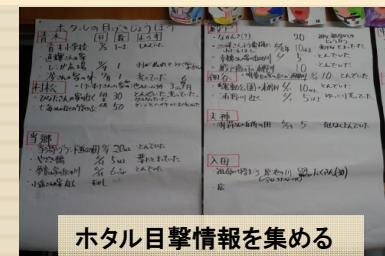
自己課題テーマ『身近なことから課題を見つけ互いに学び合う総合的な学習の時間』

【活動の様子】

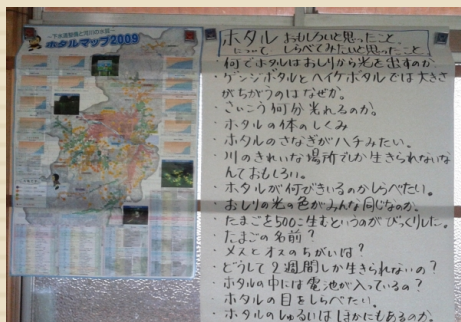
- ・「①ホタルについて調べよう」では、ホタルを採集したり、本などで調べたりした。
- ・「②ホタルのことで知り、ホタルを観察しにいこう」では、青木自然を守る会の沓掛さんから興味深くホタルについての話を聞くことができた。さらにホタルの名所へ見に行きたいという意欲を高め、ホタルの観察会へも積極的に参加した児童が多かった。
- ・「③青木のホタルのすんでいる川を探そう」では、家の方の協力もいただきながら夜のホタル探しが熱心にでき、ほとんどの子どもが一人ひとつ以上のホタルの発見場所データを持つことができた。
- ・「④目撃した情報をもとにホタルマップをつくろう」では、各自持ち寄ったデータをもとに、地図への表し方を工夫したり、友だちと協力し合ったりして完成することができた。



ホタルについて熱心に調べる児童



ホタル目撃情報を集める



ホタルについての疑問や調べてみたいこと



沓掛さんのホタルの話を熱心に聴く児童たち



ホタル見学会に集まった児童たち

【成果】

- ・ホタルを題材に据えたことで、他教科や行事等にも関連させていくことができ、総合的な学習の幅を広げていくことができた。
- ・ホタルは、子どもたちにとって神秘的な興味のある身近な題材であり、また青木の地域の特性にも合った題材でもある。また、地域の方からホタルの話を聞いたり地域の方と共に観察をしたり、自らホタルを探したりすることにより、地域の人々の願いを知り、自然への興味を持つことができた。環境へも目が向いた。
- ・さらに、体験活動や話し合い活動をしたり、地域の方などの他者と関わったりすることによって意欲的に学び合うことができた。課題解決への明確な見通しがもてるようになった。



音楽会で「とべないホタルピピ」を発表する児童たち



運動会でホタルの動きを表現



ホタル情報カードを熱心に書く児童たち



授業の中で意見交換する児童たち

【課題】

- ・子どもたちが持っている情報を整理してマップに表していく場面で、子どもたちの意識と教師側の願いがうまくみ合わず活動が停滞した。しっかりと子どもたち自身に課題がすわるような手だてが必要。
- ・活動全体を通して、子ども自らが課題を持ち、互いに学び、考え、そして主体的に取り組むことができるようになるための気づきや発見を大事にしたい。さらにそれを引き出す発問の工夫や手だてが必要なのだろう。

平成26年度 青木小学校 重点研究まとめの会


総合的な学習の時間
青木村の夕手アカネ

3年1組 担任：山本崇





自己課題テーマ

ふるさとに誇りを持ち、
対象に積極的にはたらきかけようと
する姿勢を育む
総合的な学習の時間のあり方



なぜ、ふるさと学習(地域素材)なのか？





「地域を知る」



「地域を好きになる」




「地域に誇りを持つ」



「地域と自分との関係について考える」






地域(ふるさと)は、

自分自身を形作っているもの

つまり・・・



生きていく上で精神的な土台となる
アイデンティティー(自分自身のより
どころ)の形成が目標

ふるさと学習 (地域素材) は手段

「タチアカネ」という素材の持つ特性

地域の特産物

食べられる！

地域の人々の思い

育てやすい

教科との横断的な学習が可能

問題解決的な学習

関わり合い

教科との横断的な学習が可能

<国語> 手紙を書こう・本で調べて報告しよう

<算数> 重さ・割り算・小数

<理科> 植物の育ち方

<社会> 身近な地域・方位・地図記号
農家の仕事・古い道具と昔の暮らし

<図工> 看板作り(木工)

問題解決的な学習

10月9日(木)

しゅうかく大作戦②「どうやって積むの？」



T : どうやって
やるんだっけ？

実が落ちないようにやさしく



刈った夕チアカネの向き
をそろえた方が干す
ときに楽だから、向き
をそろえて一輪車に積
む！






向きはバラバラに積んだ方がいいと思う。だって、そろえて片方が重くなると、一輪車のバランスがとれなくなるから。

なるほど！賛成！





T : 早く始めたいのに
困ったな……。

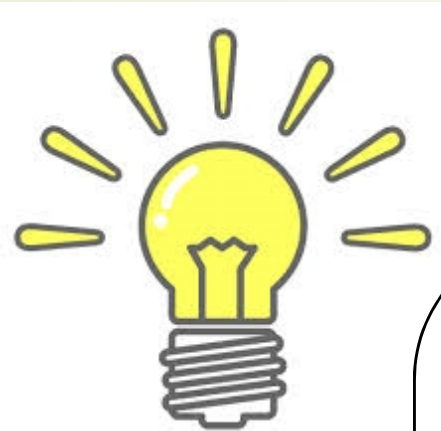
NG
発問

T : どっちがいいと思う？

考えが真二つに割れる……。

OK
発問

T : じゃあ、どちらの方法も
できるようにするには
どうすればいいかな？



一輪車は10台
あるから、
半分ずつに
すればいい！

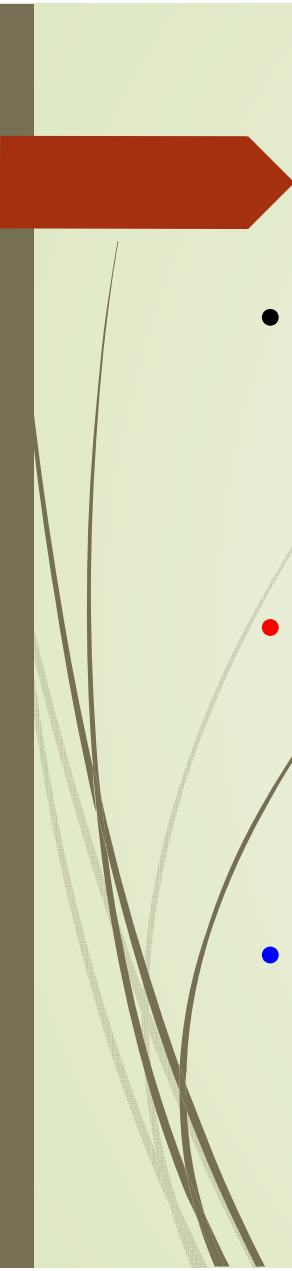
問題解決！



成果と課題

<成果>

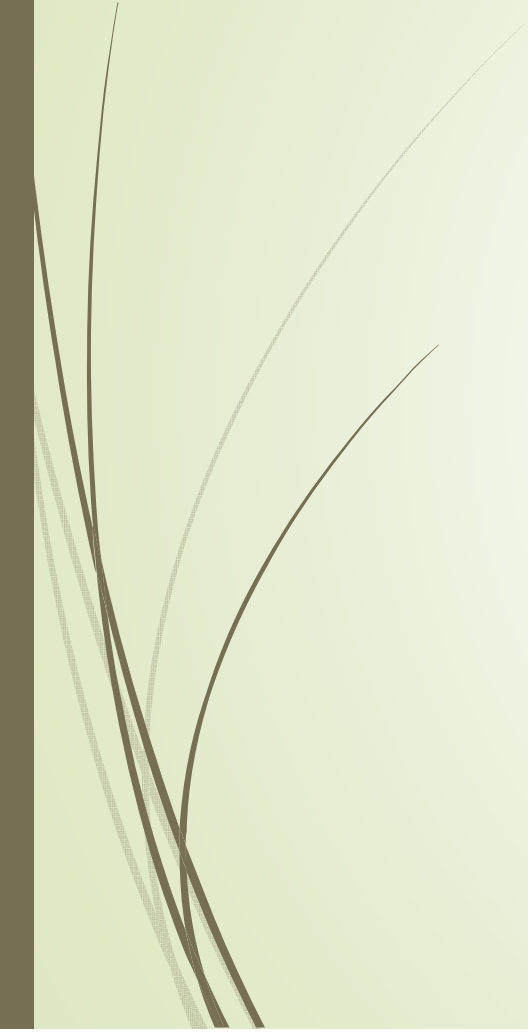

- ・ 徹底的に話し合い、児童主体の学習を進めたことで、自分の考えを持ち、伝えることができるようになった。
- ・ 問題解決型の学習を繰り返す中で、対象(地域素材や友だちなど)に積極的にはたらきかけようとすることができた。

- 
- 様々な他者(友だち・地域の方)と関わる中で多様性を認めることができるようになった。
 - 正解のない問題に取り組む中で、納得解を見つけようと試行錯誤することができた。
 - 教師としてのあり方を問う中で、子どもたちをよさを数多く見つけることができた。



<課題>

- アイデンティティの形成は、実証することができない。
- 子どもたちの何をどのように評価するのか。
- 青木村は地域素材の宝庫で、大変魅力的だが、活動は精選していく必要がある。



終わり

平成26年度 重点研究まとめの会

総合的な学習の時間

「命をいただいて、わたしたちは生きている」

5年1組担任 久保田俊也

自己課題テーマ

「青木村の良さを実感できる総合的な学習の時間の教材のあり方」



青木村の良さを実感することで、

青木村をもっと好きになってもらいたい

青木村をもっと知ってもらいたい

青木村の良さを後世や村外に広めてもらいたい

自己課題テーマにせまるための 3つの手立て

- 米作り(田植え、稲刈り、脱穀)
- 社会科体験学習(鷹山ファミリー牧場)
- 農村体験

田植え



稲刈り



脱穀



子どもたちの感想より

・~~きょ年まで青木小にいたほり内りつ男先生と、青木村のほり内とみ子さんに教えていただきました。どちらのほり内先生も、やさしく教えてくれました。やさしいだけではなく、米作りのプロだと思いました。二人とも、青木村に住んでいると聞き、青木村の財さんだ~~と思いました。もっと、いろいろなことを教えてもらいたいです。

社会科体験学習（長和町鷹山ファミリー牧場）



子どもたちの感想より

・この社会見学で、「命の大切さ」を学びました。わたしたちは、毎日、植物や動物の命をいただいて、生活していることを知りました。(中略)今回は、遠い長和町でしたが、青木村でも、こんな活動ができるといいなと思いました。青木も自然いっぱいだから、こんなことが体験できると思います。

農村体験



子どもたちの感想より

・農村体験では、青木村の自然の良さと、そこに住む人のあたたかさを感じることができました。(中略)こんなすばらしい青木村に住んでいることを本当にうれしく思います。

<成果>

・「青木村の良さをさがそう！」と年度初めの総合的な学習の時間で課題を設定したおかげで、子どもたちは、青木村の良さに目を向けた活動ができた。

<課題>

・もっともっと青木村の「ひと・もの・こと」にかかわらせるべきだった。

・もっともっと青木村の「ひと・もの・こと」を発掘すべきだった。

<研究グループ全体の成果>

- ・ 教師（自分自身）のあり方を問うよい機会となった。
- ・ 地域素材（川、ホテル、夕チアカネなど）の発掘ができた。
- ・ 青木小の生活科・総合的な学習の時間の題材として、継続できるものであった。
- ・ 初めて行うもの（夕チアカネ）であったため、見通しが持てなかったが、逆に子どもと活動や気持ちが共有できるところが多かった。

<研究グループ全体の課題>

- ・ 教師の負担は大きいですが、今年の活動を振り返り、精選できる活動は精選していく。
- ・ 生活科・総合的な学習の時間の題材を通して、青木小の児童の何を育てていくか、どのような力をつけていくか・・・議論をする必要がある。
- ・ 形骸化しないように。毎年やるけれど、子どもが主体となる活動になるように。
- ・ 子どもの様子を、記録をとるなどして、しっかり見ていく。よいところを認めていく。変化したことを認めていく。
- ・ 「生活科」と「総合的な学習の時間」の年間指導計画の整備が必要。めざす子ども像達成のための指導計画にしたい。

終わり

特別な支援を必要とする児童への、集団への適応力、生活適応力を高めるための支援はどうあったらよいか

すべてが新しいことではない。青木小でも日々の生活・授業の中で行われていることだ。
まず できることから始めてみよう

すでに行われていたこと

全教室の避難経路図画同じ形で同じ位置に掲示されている ... どの教室に行ってもここを見れば避難経路がわかるという安心感

すぐに取り組みそうなこと

- ・教師用棚の目隠し ... 黒板に集中しやすくするために、目からの余計な刺激を減らすために
- ・授業の流れを板書 ... 何をするか(何をしたか)がわかり、安心
集中しにくい子にとって、後もう少し ここまでできた という前向きな気持ちになれる

教室環境を見直してみよう
あると便利な教材や方法を使って みんながわかる授業をしよう

「1000までの数」

2年2組 原田 佐智子

自己課題テーマ

個の理解に応じた支援のあり方

10を単位にして、そのいくつ分になるかを、10円玉、100円玉を使う、絵に描いて考えるなどの活動を通して考えることで、数の相対的な大きさをとらえた。

Y児は、10円玉を使って10を24個集めた数はいくつになるかを考えた後、ワークシートを使い、10円玉の絵を描いて考えていた。

R児は、数え棒を使って考えた後、言葉で説明することもできた。いろいろな方法をとることで、意欲的な活動ができた。



成果

- ・様々な方法をとることが、意欲的な活動につながった。
- ・1つの方法だけでなく、自分のわかりやすいやり方を選んで追究することができた。

課題

- ・電子黒板のカメラにプリントを写して発表を行ったが、消えてしまうので、まとめは黒板に残る方法で行った方がよかった。
- ・いろいろな方法がありすぎて戸惑ってしまった児童もいた。場合によっては、みんなで同じやり方でやる方がよい。

どの子にも、あると安心で便利な支援のあり方と教材の工夫

4年1組 藤原朱実

成果

- 授業の流れや準備品を板書することによって、うっかり聞き逃してしまった子も、授業に参加できる。
「今日は〇〇をやるんだな」「あと少し頑張れば終わるぞ」「ここまでは頑張ろう」と前向きに授業に参加できる。
- 担任は、指示も1回ですみ、注意することが減る。活動に対して意欲が低下気味な子へも「ここまでは頑張ろう」「この活動だったらできそうかな」と励ましながら授業に参加させることができる。
お互いがストレスなく授業できる
- 教材を視覚化することで、授業内容をイメージしやすくなり、つぶやいたり発言したりしやすくなる。
デジタル教科書・電子黒板・カメラ・拡大プリンターなどのIC機器を活用することで教材が工夫できる
- 「その子」に必要な支援が、全員にとって、あると便利な支援になることがある。

課題

- 教材の準備には労力がある。時間もかかる。←一度作った教材は共有できるとよい。
- 国語の授業を参観していただいたが、授業の骨組みは国語であって、手立てが先ではない。評価もきちんと行う。
手立てを入れすぎると授業が複雑になり、ねらいがはっきりしなくなってしまう。
視覚支援もありすぎるとわかりにくくなってしまうこともある。
↑子どもの実態に合わせて、教師の感覚が大事。(主事さんからの助言)

自己課題テーマ「個の理解に応じた支援のあり方」
単元名 大単元「お店の売上で、パーティーをしよう」
小単元「お店屋さんをしよう」

3組 滝沢 麻衣子



授業・活動の様子 (11/5)

- 1, 11/11のお店屋さんに向けて頑張りたいこと・本時の学習の目標決め。
- 2, お店屋さんの練習。(値段を伝えて袋に入れる子・お金の計算する子)
- 3, 先生方にお客さんになってもらい、お店屋さんごっこ
- 4, 振り返り(本時の反省、次のお店屋さんで頑張りたいこと)

成果

- ・授業の流れを示したことで、児童が見通しを持って活動ができた。
- ・児童の状況を見て、内容変更。
- ・つまづきを予想し、手順表を準備。
- ・本番に近い練習ができた。

課題

- ・具体的に、目標を決める。
- ・具体的に良さを褒め、やり方を教える。
- ・生活単元学習と、自立活動の違い。
- ・さらなる実態把握

自己課題テーマ「個の持ち味に応じた学習教材のあり方」

4組 池田 愛

授業・活動の様子

- 1 各自、学習課題に取り組む
- 2 少人数でSSTすごろくをする
(止まったマスによってカードを引き、質問に答えたり指示に従ったりする)

成果

- ・その子にとって苦手な事も、「これがあれば自信を持って取り組める」と思える教材の準備ができた(九九表、まとめやすい算数ノート、書く負担を減らす漢字教材等)
- ・学習や活動の流れを把握することで、見通しを持って取り組むことができた。



課題

- ・ヒントカードの工夫→どの問題でも共通で使える物に
- ・学習したことのまとめプラス1→簡単で取り組み易く
- ・学習量の増やし方→本人が納得できた上で増やす
- ・SSTすごろくなどのゲーム→ルールを明確にしてい
- ・ルールや話形カードなどをサイコロと共に移動する



単元名「病気の予防」

養護教諭 西川仁子

- ▶ **主眼**：病原体が要因となって起こる病気の予防について学習した子どもたちが、生活習慣によって起きてくる病気があることを知り、自分の生活行動を振り返ったり血液検査の結果を見たりして、これから健康のためにどのような生活していったらよいか考えることができる。
- ▶ **自己課題テーマ**：興味のわく健康教育の教材とは

成果

- ・血液がドロドロしていると、なぜ血管がつまりやすくなるのかを説明するのに図を使ったことがわかりやすかった。
- ・学習したことを自分の検査結果で確かめたことで、自分の問題としてとらえられた。
- ・今まで気にとめていなかった血液検査の結果について意識する機会となった。

課題

- ・グループで考えたり、調べ学習を取り入れたりすることができず、説明を聞くことが多くなってしまった。
- ・血液検査の結果をみるときに、他の検査項目についてもどんなことがわかるのか、簡単なメモを用意しておくとうよかったか。



実践の中から見えてきたこと 成果と課題

成果

- 1 教材のちょっとした工夫で全員が活動に意欲的に取り組めるようになる。
また、工夫により子どもも大人も気持ちよく、安心して生活できるようになる。
- 2 操作活動や動作化する活動は、体験と結びついて学習するため、理解しやすくなる。
- 3 絵や板書によって指示を出すことで、聞き逃しやすい子も慌てずに活動ができ、注意も減る。
- 4 授業をシンプルにし視覚化することで、課題に取り組みやすくなり、どの子にもわかる授業になっていく。
- 5 「その子」にとって必要な支援が、全員にとっても『あると便利な支援』になっている。


課題

- 1 研究内容を発信したり授業公開をしたりすることができなく、全校の先生方と共有することができなかった。
- 2 今年度やってきたことから、全校で取り組めそうなことを洗い出しやっていけたらよい。
- 3 栗原先生や森田先生の仕事内容や立場を年度当初、全職員で確認しあいたい。




家庭科 (ICT)

ICTシンポジウムにむけて



研究テーマ

ICTで、楽しく分かりやすく伝わる授業づくりを目指して
～学び合いを通して、生活に生かそうと願いがもてる家庭科



ICTシンポジウム

2020年児童1人1台にタブレットPC
を整備

→実際には行政レベルで他に流用され遅れ
ている（地方交付税の使い道）

→学校関係者だけでなく行政トップや教育
委員会にICTの必要性を訴える

実践研究

学力向上をめざし、全校研究を「児童の学び合いを大切にする授業改善」とし、「ICT機器を活用した実践研究」を重点研究の1つに据え研究を進めた。

研究テーマ

「ICTで楽しく分かりやすい授業を目指して
～学び合いを通して、生活に生かそうと願いがもてる家庭科
～」

協働学習 = 学びあい

A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室での授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業



本年度の実践研究

○児童に学習活動への必要感が生まれるように授業を構想

○タブレットPCや学習支援ソフト等を活用し情報交換



友と学ぶことの良さを実感し、表現力の向上が図れる

ジャストスマイルクラス



クラスで意見を共有・集約し
学びあう

デジタルノート



子どもたち一人ひとりの意見を収集。みんなの意見を共有することで、自分とは異なる意見にも触れ、それらを参考にしながら考えを深めていくことができます。

さまざまな意見から新たな気づきを与え、子どもたちの思考力をはぐくみます。

配付・回収

先生機からデジタルワークシートなどを児童のタブレットに、一斉送信します。同様に回収も行えます。

メリット

- ・配付や回収にかかる時間を短縮できる
- ・授業が中断しないため、児童の興味関心が持続する


画面巡視

児童のタブレット画面を、先生機で一覧表示します。




メリット

- ・机間指導することなく、状況を把握できる
- ・電子黒板で、児童とともに見比べられる



1 児童の実態にあわせたICT

○教師が、一方的に情報を提供したり活動を指示したりするのではなく、児童にその学習活動への必要感が生まれるように授業を構想する必要がある。ICT機器は必要感を生み出す手段であったり、学習活動を効率よく行ったりするために活用したい。



2 ICTに慣れる

○タブレットPCや学習支援ソフト等を活用することで、児童相互や学級全体における情報交換をすることが容易になる。情報交換の機会を積み重ねることにより、友と学ぶことの良さを実感し、表現力の向上が図れる。

○教師が日常的に利用することも重要。

3 教科の到達目標にあわせたICT

○ICTはあくまでも授業の手段であり、コミュニケーションを助けたり、効率的により分かりやすく提示したりするもので、授業の構成は学習の目標をもとにすることが基本になる。家庭科の授業においてもねらいにもとづきどのような献立にするか学習指導要領にそうよう指導があった。

単元名 家庭科 「1食分の献立を工夫しよう」

6学年 32名

専科 桜井睦子

主眼: 家族のために作ろうと考えた献立について、友だちと意見交換しながら、食品を加えたり入れ替えたりして、さらに家族に喜んでもらえる献立に工夫することができる。

家族に喜んでもらえるようにこんだてを工夫しよう 2014年12月19日(金)

名前 早川一貴

こんだてのテーマ 栄養がありボリュームのある献立。

お家の人の希望 野菜をいっぱい食べられるようにする。

工夫しようと思っているところ、工夫したいと思っているところ
野菜をたくさん入れる。

24番 早川一貴

くわ しょうゆん かせん ち は
加えられそうな食品 (1付箋に書いて貼る)

ハンバーグの上に、チーズをのせる。お肉はハンバーグに野菜を乗せると、チーズがとろける。

ポテトサラダにトマトをのせるといい。

現象樹

ハンバーグにソースをかけてもいいと思う。

柳井 嘉留

ハンバーグの所に野菜を盛りつける。

テーマ: 栄養がありボリュームのある献立。
お家の人の希望: 野菜をいっぱい食べられるようにする。
6年1組 氏名 早川一貴

料理名	おもにエネルギーのもとになる食品		おもに体をつくるもとになる食品		おもに体の調子を整えるもとになる食品	
	米・パン いも類など	油・バターなど	魚・肉・卵・豆類など	牛乳・小魚・海苔など	色の濃い野菜	色のうすい野菜・果物
ごはん						
ハンバーグ						
みそ汁						
ポテトサラダ						

成果

- ・ICTを使った献立表により、食品を選びやすく変更しやすく、献立が立てやすくなった。また、学び合いでも確認しやすかった。
- ・教師用モニターにより、児童の学習状況が早くしやすかった。
- ・ICTを利用した場面と、ICTを使わないで直接書き込みをさせた場面と、学習の都合によってICTを使い分けたことで、学習を効果的にすすめることができた。
- ・学習課題が児童の身近な「給食」からスタートしたことで、多くの子が課題を持って授業を進めることが出来た。

課題

- ・見届けの部分について、どういう姿なら評価できるか、児童の姿で見極める。
- ・ICTを利用する場面と利用しない場面を見極める。
- ・個に帰る時間を確保する。

いろいろな料理にたいして下さり!!

4月

1/2

2/2?



3/2

いろいろな料理にたいして下さり!!

4月

5



7/2



お菓子、お弁当、お惣菜、お惣菜、お惣菜

字彙 ハナズメ
研究するの
色々あるの

夏にこの時期は
お菓子
色々あるの

Dandy's
many candies
love eat